

令和4年度ミクロネシア諸島自然体験交流事業  
(オンライン交流) 事業報告書

1. 趣 旨 日本とミクロネシア諸島の中学生が、それぞれの国の文化を相互に学び、自国での生活や習慣についてオンライン上で発信・議論することで、異文化理解の増進を行うとともに、グローバル人材の育成を図る。

2. 日 程 令和4年10月5日(水) 13:00～15:00

3. 参 加 者 日本(渋谷区立松濤中学校) 中学1～3年生 31名  
ミクロネシア連邦(ポンペイ州) 中学1～2年生相当 17名 合計48名  
※マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦ヤップ州、チューク州、コスラエ州  
及びパラオ共和国は、新型コロナウイルス感染症等の影響により不参加

4. 活動内容

(1) ビデオレターを使った文化交流

自国の文化を発信する力を養いながら、ミクロネシア諸島と日本の相互理解を図るために歴史や文化、習慣等についてまとめた3～5分程度のショートムービーを作成し、交換し合った。

(2) オンラインでの交流

自分の考えや意見を自ら発信する力や、相手を尊重する態度を育成するために、生活に関する身近なテーマや、ビデオレターの内容等、お互いに興味・関心のある事柄について意見交換を行った。

「学校紹介、生活、暮らし」、「伝説・童話」、「SDGs」をテーマに、両国の生徒を2つのグループに分けて意見交換を行った。

5. プログラム

13:00 開会式

- ・主催者挨拶 国立青少年教育振興機構理事長 古川 和
- ・来賓挨拶 駐日ミクロネシア連邦大使館特命全権大使 ジョン・フリッツ閣下

13:15 グループ活動

- ・自己紹介、自国紹介
- ・オンライン交流(意見交換)

14:35 閉会式

- ・グループ発表
- ・閉会挨拶 渋谷区立松濤中学校校長 守原 智信 氏  
ポンペイ州教育局学生支援専門官 イラニー・サイモン 氏

15:00 終了

## 6. 概要

### 「開会式」

松濤中学校の生徒による司会進行



開会式や閉会式では、多くの参加者を前に、流暢な英語で滞りなく進行役を務めました。

ジョン・フリッツ閣下からの御挨拶



パンデミックのなか、今年も交流できることに感謝を述べ、来年こそはリアルでの交流が再開されることを強く期待されました。

古川理事長からの挨拶



「できることなら、自分の肌で相手国の自然や文化を体験していただきたい」と述べ、「今回の交流では、互いにたくさん話して、この交流を楽しんでいただきたい。」と話しました。

### 「グループ活動」

A グループ(日本: 中学2～3年生、ミクロネシア連邦: 中学2年生相当)



- ・自分たちで作った動画(SDGs)について説明したり、お互いの国の歌を歌い合いました。
- ・英語での会話に加えて、身振り手振りも使った意思表示を行い、時間いっぱいまで質問や意見が飛び交う姿が見受けられました。

B グループ(日本: 中学1年生、ミクロネシア連邦: 中学1年生相当)



- ・クラス数や生徒の人数、好きな科目、給食についてなど学校生活について質問し合いました。
- ・お互いに恥ずかしがりながら会話がスタートしましたが、ALT等の力を借りて徐々に会話が広がる様子が見受けられました。

### 「閉会式」

閉会の挨拶①

ポンペイ州教育局  
学生支援専門官  
イラニー・サイモン氏



閉会の挨拶②

渋谷区立松濤中学校  
校長 守原 智信氏



お二人からお互いの参加者に対して、感謝の言葉を述べるとともにエールを送り合いました。

集合写真



(参加者からの声)

- ・お互いの学校生活や文化、日常生活を知り、日本と比較することができてよかった。
- ・オンラインだったがお互いの文化を知ることができてうれしかった。
- ・もっと英語力をあげて、質問にも答えられるようにしたいと思った。
- ・自分の好きなことや趣味を積極的に伝えたほうがいいと思った。また、どんどんコミュニケーションをとるとさらに楽しくなると感じた。
- ・相手国の生徒に自分の国のことを教えられてよかった。相手にうまく伝わった。